

C—54 ボタンつけに関する研究  
—補強布の効果—

新潟県立新潟女短大 小野日出子  
○平沢 和子  
東京農工大工 木下陸肥路

1. ボタンつけ部分の切断機構を、モデル化した実験によって観察し、その理論式を報告した。今回は実際のボタンつけを想定し、補強布の大きさ、つけ方を変化させその効果を調べ考察する。

2. 試料は実験用に試作したレーヨン布、補強布は下記の(1)~(3)としてボタンつけを行い、ボタンホールに代わるジャカード通糸を用いて引張試験を行い、切断強度を調べた。

(1)試料布と同質、大きさは  $1\text{ cm} \times 1\text{ cm}$ ,  $3\text{ cm} \times 3\text{ cm}$ ,  $5\text{ cm} \times 5\text{ cm}$

(2)みかえしを想定した同質布

a 布端を固定しないもの。

b 布端をミシンで固定したもの。

c 布端を接着テープで固定したもの。

(3)(1)と同じ大きさの接着布をつけたもの

3. 固定しない補強布はその大きさにかかわらず補強効果は少ない。それにくらべ布端を固定したものは効果は大であった。

更に補強布として接着布を用いるならば、著しく補強効果が增大することを認めた。